

種名	<u>ビ　　ワ　　ヒ　　ガ　　イ</u> <u>Sarcocheilichthys variegatus microoculus</u> 
分類	コイ目コイ科ヒガイ亜科ヒガイ属
形態的な特徴	カワヒガイに似るが、体が大きくて側扁し、吻がとがり、口が大きく、眼が小さく、尾柄高が頭長の 49%未満と低く、尾びれの後縁の切れ込みが深い。1 対の口ひげはきわめて短く、先端に向かって先細る。体色や斑紋のパターンはカワヒガイに似るが、雲状斑はあらく、特に琵琶湖北部のやや深いところに生息する大型の個体では消失する。背びれには 1 本の黒色帯がある。雄の第 2 次性徴はカワヒガイと同様であるが、婚姻色はやや淡い。また雌では 2～3 cmの産卵管を伸長させる。幼魚は体側に 1 本の黒い縦条を備える。
分布	琵琶湖の固有亜種で、瀬田川や京都疎水にも分布するが、流入河川ではまれ、1911 年に石川県今江潟へ。1912 年に諏訪湖へ。1917 年に霞ヶ浦へ放流され、現在では東北地方、関東地方、北陸地方、諏訪湖、高知県で定着している。
繁殖行動	産卵期は 4～7 月。産卵に適した水温は 17～21℃で、最適な水温は 19℃。成熟時の全長は、雌雄とも最小のもので約 8 cm。琵琶湖ではイシガイ、マルドブガイ、カラスガイ、ササノハガイなどの殻長 2.5～7.0 cmの二枚貝に産卵する。卵の形状はカワヒガイのものとはほぼ同じであるが、卵径がやや小さく、吸水後で径 3.5～4.5 mm。受精から孵化までに要する日数は、水温 15.0℃で 17～27 日、17.7℃で 12～17 日、21.0℃で 8～12 日、満 1 年で全長 8～10 cm、2 年で 11～16 cm、3 年で 15 cm以上に成長する。雌雄ともふつう満 2 年で成熟する。
生息場所	湖や川の下流域の砂底や砂礫底を好み関東平野では潮汐の影響を受ける汽水域にも生息する。
食性	常に水底近くを泳ぎ、毛翅類やユスリカ科などの水生昆虫の幼虫、小型の巻貝、プランクトン動物、石面に付着する有機物や藻類を食う。
生息環境への配慮事項	産卵場の条件としては、ゆるやかな流れがあり、沈水植物が粗生し、上記の二枚貝の存在していることが必要である。
引用文献：改訂版 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚を改変	